

ブラッセル日本人学校
校長 岡田 真治ブラッセル日本人学校における新型コロナウイルス感染症への対応について
(第十七報)

暑中の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃から本校教育活動の推進にご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、6月4日、18日に行われました協調委員会において、様々な緩和策、10のコツや夏の計画が示されました。ワクチン接種年齢も一定の条件下ではあるものの12歳まで引き下げられ、ベルギーのワクチン接種率(2021年6月8日時点で2回目が終了)は18歳以上で29%、65歳以上は62.8%です。(1回目が終わった18歳以上は57.2%、65歳以上は90.4%)感染者数は5月末には2000名を下回り、指標として注目される集中治療患者数もRt値(実効再生産数)も良好な見通しを示していました。ところが、7月8日時点ではワクチン接種率18歳以上で49.8%、65歳以上83.8%(2回目接種完了)と順調にすすんでいたにもかかわらず、Rt値1.086でまた、1を上回っています。公衆衛生当局の発表によれば、これは主に10代を含む若年層の感染者が顕著に増加していることによるものとされています。

現在段階的な規制緩和が行われていますが、変異株の問題などもあり、夏季休業期間の旅行等の解禁により、コロナ禍の状況が今後どう推移するかについては、未だ注視しておく必要があります。

本校においては現状として、日常生活を維持しながら必要な制限を行い、感染を防止しながら結果として最大限の対面授業を維持するという方針に変更はありません。

今回の協調委員会で示された措置に伴う本校の新学期学校運営体制について下記の通りとしますので、ご理解ご協力を宜しくお願い致します。

昨年度は様々な状況の変化に対応し、世界で最も早い段階でのオンライン授業のスタートを実現するなど、保護者はじめ関係機関のご理解とご協力により学校運営を無事に終えることができました。今年は、少しずつでもできることを広げ、行事等の実施を目指していけたらと考えております。

日々状況が変化していることから、常に関係機関と連携し正しい情報の収集に努めながら即時対応して参ります。非常事態にあるわけですが、矜持をもって落ち着いて行動しましょう。

記

1 協調委員会を受けた今後の対応方針について

(1) 基本的な考え方

完全な日常化(コロナ以前の学校体制)とは①感染症防止のためのバブル解消が大原則であり、これにより②バブルごとの動線分けの解除、③小学部と中学部の活動エリア分離の解除となります。(小学部1クラスは3階に移動し、PTA会議室も新館の定位置に移動します。フランス語2教室は3階パソコン室隣の定位置に移動します。多少順番の前後はあるかもしれませんが、他にも④小学部職員室(職員室)と中学部職員室(パソコン室)を一つにする、⑤PTA活動の日常化、⑥保護者の校舎内立ち入り許可など、コロナ以前のルールに戻ることが完全な日常化となります。本校としましては、こうした形を「最終的なゴール」と見据え、引き続き必要な対応を遅滞なく講じていく考えです。

(2) 行事等実施の考え方について

行事等については、実施を前提としながらも、現在も残されている様々な制約を検討しながら、実施時期や実施形態を考えていく必要があります。

ア 教科授業の完全実施

教科授業の完全実施を第一に考えた学校経営を行います。(他の教育活動に対し比較優位ということ)結果として最大限の対面授業を実施できるように、場合によってはオンライン授業へ切り替えるなどの措置を今後とります。行事の実施についても、この観点から慎重に検討します。

イ 学年バブルの維持

当面、学年バブルの考え方は維持します。PCR検査を受ける児童生徒がいた場合にオンライン授業に切り替える活動集団を学年バブルといいます。行事の実施にあたり、基本バブルは学年部ごとですが、例えば運動会の種目の練習で小学部1、2年生を一つのバブルとします。中学部は一つのバブルとなります。(バブル所属の一人がPCR検査を受け

ることになった場合、バブルの2学年をオンライン授業に切り替えます。)

ウ 諸行事等、準備期間の活動制限

例えば運動会の場合、8月28日(土)の当日だけでなく、準備期間についての活動制限が重要です。練習期間中に制限があると、実施も縮小せざるを得ません。欧州の日本人学校も本年度は縮小して運動会を実施することを決定しています。(学年ごとの演技や団体競技のみを実施。昼食等の飲食は禁止)

(3) スクールバスの利用ルールについて

現在行っている小学部と中学部の動線分けや運転手席の後部を空けたり、無言であること等のルールについては、バス会社の運行ルールが改定され、かつ本校のバブル解消が実現するまで継続します。

2 新学期について

- (1) 本校ではこれまで通り、PCR検査を受けることになった場合、所属集団(バブル)をオンライン授業に切り替えます。本人の家族がPCR検査を受けることになった場合は、本人は出席停止とします。
- (2) EUのコロナ電子証明書(ワクチンの2回目を接種して2週間を経過、陰性証明取得、コロナ罹患から完治)を所持したものは7月1日以降EU加盟国内で移動ができるとありますが、旅行先で変異株等の流行が確認された場合など、各国地域の公衆衛生状況は常に流動的であり、そうした際にどのような措置があるかも不透明です。旅行後に検疫隔離がある場合のことを常に想定して行動する必要があります。EUのコロナ電子証明書所持者は検疫隔離を行う必要はないとありますが、変異株の問題もあり注意を払う必要があります。

3 その他

- (1) 6月9日(水)からブリュッセル首都圏地域における屋外でのマスク着用義務を解除する旨発表がありました。本校ではこれまで通り外遊びや体育の時間などの運動中以外はマスク着用を義務づけています。換気や手洗いの励行、次亜塩素酸ナトリウム等による消毒などの取組も継続して行っています。
- (2) 小学部(1、2階)と中学部(3階)を動線から生活フロアまで分けて活動しています。
- (3) 小学部職員室(1階)と中学部職員室(3階)を分けて勤務しています。職員朝会や職員会議等はオンラインで実施しています。
- (4) 担任はソーシャルディスタンスを意識し、マスク等着用していますが、児童生徒と一緒に過ごす時間も長く濃厚接触者と見なされる可能性があります。しかし、教科担任は濃厚接触者と見なされる可能性は低く、同じバブル所属と見なしていません。
- (5) 夏休み終了直前は、協調委員会の内容等を受け、新学期の方針について保護者あてメール送信する可能性があります。学校からのメールについて、こまめに確認をお願い致します。

4 今後、新型コロナウイルス感染症が本校の関係者から確認された場合について

児童生徒のみならず、保護者、教職員、教職員の家族から、新型コロナウイルス感染症が確認された場合の対応については「ブラッセル日本人学校における新型コロナウイルス感染症対応について第15報」に詳細をまとめておりますのでご確認ください。なお、ベルギー国政府の対応方針が更新され、そのことが本校の学校運営、対応ルールに影響する度にアップデートしておりますので、最新の情報を常にご確認ください。

5月27日付ご家庭掲示用「児童生徒の出席の取扱い等について(更新版)」もご参照ください。これまで通り、「助け合い、励まし合い、志し高く」の精神で乗り切って参りましょう。

○ この件に関してご不明な点は、担当までご連絡ください。

担当 黒川 昌彦 矢野千恵子
電話 日本人学校(02)672-1038